

税と幸福

幕別町立札内中学校 三年 上山 玲菜

「税」を納めるといふ制度はなぜ続けられているのでしょうか。誰がどのような目で作ったのでしょうか。

税のはじまりは弥生時代、種もみや絹織物などの貢ぎ物を税として納めていました。弥生時代をはじめりに、形を変えて現在まで続けられています。このように何千年もの間続けられているにはメリットがあるのです。現在、税金は国民の生活を豊かにするための財源とされています。いわば社会で生活するための「会費」です。税の役割として挙げられるのはインフラ整備、警察、消防、学習に関する費用の負担などです。

どれかひとつでも欠けてしまえば、生活に悪影響が出てしまう可能性があります。もし、税金がなくなってしまうば町の整備が行きとどかなくなったり、警察や救急車、消防を呼ぶだけでお金がかかってしまうなど、有料化してしまいます。また、学校の授業料など有料化になってしまい、学校に通うことのできない子供が増えてしまいます。このような世の中になってしまうと、警備がされなくなったりすることにより、町の治安が悪くなってしまいます。このような世の中にならないための税金（会費）があるのです。

税金の他の使い方として他にも、待機児童の解消や幼児教育、保育の無償化や高等教育の無償化、年金生活者支援給付金の付与など、生活を豊かにするための使い道があります。いろいろな国民が支払う「税」がありますが、私たちの最も身近な「税」は「消費税」です。税を集めるためになぜ消費税が利用されているのでしょうか。主に利用される理由として挙げられるのは、三つあります。景気、人口構成の変化に左右されにくく、税収が安定しやすいこと。働く世代など特定の人に負担がかからないこと。高い財源調達力があることなどです。確かに、安定して税を得られるので、とても税を集める方法として効果的だと思います。日本が幸福度の高い国の上位であることには、このような「税」の制度などにより国民の生活が豊かなものにされているからだと考えられます。

幸福度が一位であるフィンランドは税金、国民負担率が高いです。ですが、主に税金は社会保障と教育に多く使われています。国債費（借金の返済にかかる費用）も日本よりも低いです。日本の税金の使われ方とさほど違いがありませんが国債費の差があることで、また幸福度もかわってくるのかもしれない。

これらのことから、税金は社会を豊かにするため、正しい使われ方をし、もっと税について知識を増やし理解を深めることで国全体の団結感が高まり「税」を通して国民の幸福度が高まっていくと思えます。